

人材の国際移動に与える影響などに関する質問が出されるなど、活発な議論が行われた。また、ジャカルタの国立科学院（Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia: LIPI）に所属する研究者で構成されるインドネシアのプロジェクトチームからは、日本での技能実習経験のあるインドネシア人帰国者を対象とした調査研究についての情報が提供されるなど、今後の国際連携・共同研究の推進に向けた有意義なネットワークの土台を構築することができた。（中川雅貴 記）

2016年ヨーロッパ人口会議

ヨーロッパ人口会議（European Population Conference 2016）が2016年8月31日～9月3日にかけてドイツのマインツ（ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ）にて開催された。ヨーロッパ人口会議は1983年に設立された国際会議であり、主にヨーロッパの人口問題について研究活動を行っており、2年ごとに開催されている。今大会はハンガリーのブダペスト（2014）に続き、「人口学的変化と政策的含意（Demographic Change and Policy Implications）」を主要テーマとして開催された。

大会はオープニングセレモニーにおいて2つの基調講演があり、会期中の3日間では14テーマ（「出生力」「再生産と健康」「家族と世帯」「ライフコース」「高齢化と世代間関係」「国内移動と都市化」「国際移動と移民人口」「健康、ウェルビーイングと疾病」「死亡と長寿」「歴史」「データと手法」「経済、人的資本と労働市場」「政策関連」「開発と環境」）について、123のセッション（約500の口頭報告）と約250のポスター報告が行われた。

当研究所からは山内昌和（人口構造研究部室長）、小池司朗（人口構造研究部室長）、菅桂太（人口構造研究部室長）、鎌田健司（人口構造研究部主任研究官）、福田節也（企画部主任研究官）の5名が参加し、下記のポスター報告を行った。

- ・山内昌和・小池司朗・鎌田健司 “Japan's official subnational population projections accuracy: comparative analysis of projections in Japan, English-speaking countries and the EU”
- ・菅桂太 “Married women's employment and the timing of the 1st marriage and the 1st child-birth in Japan: patterns and covariates”
- ・鎌田健司 “Diffusion process of fertility transition in Japan: regional analysis using spatial panel econometric model”
- ・福田節也 “Gender role division and well-being of the couples: evidence from the Netherlands, Germany and Japan”

（鎌田健司 記）

アジア人口開発議員連盟（AFPPD） 第1回アクティブエイジング常任委員会

2016年9月8日（木）に、ベトナム・ハノイでアジア人口開発議員連盟（AFPPD）第1回アクティブエイジング常任委員会が開催された。前日・前々日には同じ会場でヘルプエイジ・アジア太平洋会議が開催されており、それに連動した形での開催であった。委員会にはアジア太平洋20カ国から29名の国会議員が参加し、アジア太平洋地域の高齢化の現状を確認すると共に、各国の状況の報告を通じて、議論が行われた。筆者は“Reality Check of Asia's Diverse Ageing/Aged Societies: Data & Policy Implications”と題する基調報告を行った。アジア太平洋地域は今後高齢化が進行していく